

庁議報告事項

開催日：令和8年4月1日(水)

1 桑名市長から

- 新年度になり、新しい庁議メンバーとなりますが、引き続きよろしくお願ひします。本年度に取り組むべき内容は訓示で話したとおりとなりますので、各部局においてそれぞれの業務の推進をお願いします。
- 新体制で進めるにあたり、私の思い、また、部局長としての仕事の臨み方をお話しします。
(別紙「市長談話」参照)

2 弘瀬副市長から

- 市長からの訓示にもあったとおり、新年度予算の執行にあたっては、事務事業の見直しや使用料・手数料の改定の影響を踏まえ、引き続き丁寧な住民対応・サービス向上に取り組んでください。
- 庁議の中で行う政策討議において、全部局で知恵を出し合いながら、市民に寄り添う行政の実現を目指していきたいと思ひますので、積極的に議題の提案をお願いします。

3 神谷副市長から

- 昨年度から取り組んでいた若者P Tについて、先日無事に完走セレモニーを実施することができました。各部局におかれては、若手職員の協力、職場でのフォロー等をいただき、感謝を申し上げます。現在、若者P Tの活動報告書の最終調整を進めており、完成次第全庁に共有する予定ですので、今後の各部局の業務に活かしていただきたいと思ひます。
- 若者P Tに限らず、キャリア教育、こども計画、総合計画策定などを通じて、若者世代が意欲的に関わる取組が増えています。これらの動きは、各部局の寛容な姿勢と、若い世代の提案を前向きにとらえる深い懐があったからこそであり、今後もこのような姿勢を大切にしていきたいと思ひます。

4 各部局から

○ 報告事項

- ・春の全国交通安全運動について (口頭：市民協働部)
- ・自転車の交通違反に対する「青切符」の導入について (口頭：市民協働部)

【別紙】市長談話（令和8年4月1日 庁議）

新年度最初の庁議ということで、この機会に、組織の在り方というものについて、私の思いを皆様にも少しお話させていただきたいと思っております。

皆様がこれから部長などの幹部として行使する「権限」というものは、非常に大きな影響力を持っています。ご自身の何気ない一言が、物事を大成功に導くこともあれば、全てを台無しにしてしまうこともあるということを、まずはしっかりと心得ておいてください。また、部下に権限を渡して仕事を任せたら、途中で細かく口出しをするのではなく、相手を信じてじっと待つことが大切です。待つことができずに自ら全てをやってしまうようでは、大きな組織は成り立たず壊れてしまいます。そして、権限が戻って来た時は、全て権限を渡した長が責任を持つことを心得てください。それがあるからこそ、部下は安心して仕事に邁進することができるのです。

また、『貞観政要』という、中国の唐代の名君の言葉をまとめた本に、上に立つ者が持つべき「三つの鏡」というエピソードがあります。一つ目は、毎朝出かける前に鏡を見て、自分が不機嫌そうな顔をしていないか、部下が声をかけやすい明るい表情を作れているかを確認する「銅の鏡」。二つ目は、新しい事業に挑戦する際、過去の似たような事例から成功や失敗の理由をしっかりと学ぶ「歴史の鏡」。そして三つ目は、組織の中で「裸の王様」になってしまわないよう、若手や部下からの厳しい意見にもしっかりと耳を傾けられる環境を作る「人の鏡」と語られています。皆様には、この三つの鏡を意識させていただきたいと思っております。

人間はそもそも間違いを犯す生き物です。政治学者のマックス・ウェーバーが、「情熱」、「責任感」に続く政治家の三つ目の要件として、「信念」ではなく、先を見通す「洞察力」を挙げたように、リーダーが間違った信念を曲げずに貫くと、組織全体が不幸な方向へ進んでしまいます。トップだからといって全てが正しいわけではないという危うさを常に自覚することで、初めて周囲の意見を素直に聞き、組織を成り立たせることができるのです。

さらに、部下と接する際には、ただ「見る」のではなく、関心を持って「見守る」姿勢を忘れないでください。マザー・テレサの言葉にもあるように、愛情の反対は憎しみではなく「無関心」です。部下がミスをした時はしっかりと注意する必要がありますが、それだけで終わらせて引きずらせてはいけません。次に上手くいった時に「今回は上手くいったね」と声をかけてフォローすることで、部下は「自分を見守ってくれている」と気づき、安心できるのです。

本日、私は新規採用職員たちに「仕事で苦しくなったら、一人で抱え込まずに大きな声で周囲に助けを求めよう」と伝えてきました。ですから幹部の皆様は、彼らからのSOSのシグナルを絶対に見落とさないであげてください。人に助けられた経験を持つ若者は、将来必ず他の誰かを助けられる人材に育ちます。

これから行財政改革や未来への投資など、厳しい試練を同時に乗り越えていかなければならない大変な局面が続きます。しかし、これまでどおり、お互いに関心を持ち、若手を育てて助け合える素晴らしい組織を作っていけば、必ず一緒に乗り越えていけるはずです。